

# 北東エリア

古く<sup>やすな</sup>安那郡と呼ばれていたこのエリアは、県内でも遺跡が集中する地域のひとつで、弥生時代の大集落や、多くの古墳、備後国分寺や神辺城などの多くの山城が確認されており、長い間備後の中心として栄えていたことがわかっています。

福山城築城に伴い、政治経済の中心は福山城周辺に移りますが、神辺は引き続き近世山陽道の宿場町として栄えました。



上原谷石灰岩巨大礎



## 601 廉塾ならびに菅茶山旧宅



指定種別：国特別史跡  
所在地：神辺町川北  
見学情報 **P WC**  
J R 福塩線神辺駅から約1.2km  
見学は神辺町観光協会  
☎(084-963-2230),10時～15時まで

菅茶山(1748～1827)は、安那郡川北村で本陣役を勤めた本荘屋菅波家(東本陣)に生まれました。18歳で家督を継ぎますが、その仕事を厭うようになり、学問を志して19歳で京都へ遊学し、古医法と朱子学を学びます。帰郷後の1775(安永4)年頃には、東本陣の東にあった居宅の中に私塾を開き、1785(天明5)年頃には金粟園(きんぞくえん)と呼ばれます。1790(寛政2)年頃になると塾生が増えたため、金粟園の北東に学舎(現在の講堂)を建て、黄葉夕陽村舎(こうようせきようそんしゃ)、別名閭塾(りょじゅく)を開塾します。さらに1796(寛政8)年には、私塾の永続を願って福山藩の郷校に願い出て、塾の安定を図ろうとします。これ以降、塾の名は廉塾、正式には神辺学問所と呼ばれました。塾生は福山藩をはじめ、中国・四国・九州・近畿・東北に及び、茶山の名を慕って門をくぐりました。塾では『四書五経』を中心とした講釈が行なわれ、頼山陽や北条霞亭(ほうじょうかてい)などの塾頭が補佐しました。江戸時代後期を代表する漢詩人、儒学者として全国に名を馳せた茶山ですが、この特別史跡を特色づけるのは教育者としての茶山です。茶山の後、廉塾は親族の自牧斎・晋賢に受け継がれて1872(明治5)年に閉塾しますが、その間3000人近くの塾生が学びました。江戸時代に盛行した私塾は全国に1500もあったといわれますが、その中で最も良く旧観を維持しており、当時の教育施設と歴代塾主の旧宅とともに茶山の息遣いを今に伝える貴重な特別史跡です。

## 602 菅茶山の墓



指定種別：県史跡  
所在地：神辺町川北  
見学情報 **P WC**  
J R 福塩線神辺駅から約800m

1827(文政10)年に80歳で没した菅茶山は、川北の黄葉山山麓の網付谷に葬られました。県史跡指定時の菅家墓地には26基の墓と2基の招魂碑がありました。茶山の墓は墓地の西寄りの玉垣で囲まれた木造棧瓦葺の須屋に守られ、中に墓碑と円形の墳墓があります。墓碑の撰文は頼杏坪(らいきょうへい)で「茶山先生菅君之碑」という題額は日野資愛(すけなる)によるものです。

## 603 神辺本陣



指定種別：県重要文化財・県史跡  
所在地：神辺町川北  
見学情報 **P WC**  
J R 福塩線神辺駅から約800m  
見学は神辺町観光協会  
見学日 毎月土・日・祝日  
☎(084-963-2230),10時～15時まで

江戸時代に参勤交代大名・幕府役人の休泊施設であった神辺本陣は、寛文年間(1661～1673)に筑前黒田家の本陣役を勤めたことに始まります。大名休泊の時は、1746(延享3)年に建てられた母屋を始めとして、部屋数27、畳数200余枚を使い、大名とその附添衆50～70人の収容が可能でした。札の間には諸侯の休泊時に御成門(正門)にかかげた関札も数多く残されており、1855(安政2)年の建築という御成門と木造瓦葺の黒土塀が往時の本陣の風格を伝えています。

## 604 亀山弥生式遺跡



指定種別：県史跡  
所在地：神辺町道上  
見学情報 **P WC**  
J R 福塩線道上駅から約400m

標高37.5mの亀山丘陵にある、備後南部に弥生文化が伝えられた紀元前3世紀頃の初期農耕集落です。1980(昭和55)年からの発掘調査では弥生時代前期から中期の三重の環濠集落(かんごうしゅうらく)、東斜面では環濠の外側で全国で2番目に古い土壘(どるい)も発見されました。古墳時代中期になると、丘陵上には短甲(鎧)・鉄刀・鉄剣などを副葬した亀山第1号古墳が造られ、この時代の神辺平野東部を統率していた武人の性格を持つ支配者の墓と考えられます。

## 605 中谷廃寺跡



指定種別：市史跡  
所在地：神辺町道上  
(福山市道上小学校校庭)  
見学情報 **P WC**  
J R 福塩線道上駅から約900m

暮待寺とも呼ばれる中谷廃寺は、奈良時代前期(7世紀後半)に創建され平安時代後半まで続いた寺院跡です。発掘調査の結果、西に塔、北に講堂が検出され、東に金堂を配置する法起寺式伽藍配置の寺院であったと考えられます。備後地域への初期仏教文化の伝播を知る上で貴重な遺跡と言えます。

## 606 大坊古墳



指定種別：県史跡  
所在地：神辺町西中条  
見学情報 **P WC**  
個人所有

中条谷の西側丘陵先端に築かれた、巨大な横穴式石室をもつ古墳です。直径14m、高さ約5mの南北方向にやや長い円墳で、15m×12mの長方墳の可能性もあります。全長11.3m、玄室・羨道幅2m、高さ2mの横穴式石室で、表面を磨いたような花崗岩が使われています。玄室と羨道は同じ規模で、玄室は前後二室に分けられ、入口には2本の石柱が立てられています。高度な土木技術が駆使して造られており、7世紀前半の古墳時代終末期頃に造られた首長墓と考えられます。

## 607 迫山第1号古墳



指定種別：県史跡  
所在地：神辺町湯野  
見学情報 **P WC**  
井原鉄道井原線湯野駅から約1.8km

備後国分寺跡の北西丘陵に迫山古墳群は11基の古墳が確認されています。その中でも最大規模を誇るこの古墳は直径21.5m、高さ5mの円墳で、全長11.6m、玄室幅2.5m、高さ2.8mの南東に開口する片袖式の横穴式石室です。石室規模と出土遺物から神辺平野東部の有力な首長墓と考えられます。発掘調査で出土した単鳳環頭大刀(たんほうかんとうたち)などの出土遺物は県重要文化財に指定され、神辺歴史民俗資料館で展示されています。

608 堂々川砂留

どうどうがわすなだめ



登録種別：国登録有形文化財  
所在地：神辺町西中条・湯野

見学情報 P WC



東中条の東山に源を発する堂々川は、全長4kmの溪流です。流域の山々は黒雲母花崗岩が風化した表土が流れやすい地質ですが、中世までは樹木の保水力で守られてきました。1619(元和5)年に福山藩が成立すると新しく城下町が作られ、建築資材や熱エネルギー源として薪の需要が増えます。また、1667(寛文7)年頃から始まったとされる松永塩田の経営にも膨大な薪を必要としたため、近郊の山々は荒廃していききました。1673(延宝元)年には堂々川上流の大原池の土手が豪雨で決壊し、下流の下御領村に多量の土砂を流し込んだため、63人もの死者があったと記録には残っています。このような災害が頻発したため、福山藩では領内で多くの砂防工事を実施し、砂留と呼ばれる堰堤を築きました。堂々川流域では現在16基の砂留が残されています。中でも、6番砂留は幅56m、高さ13.3mと県内最大級の規模で、1835(天保6)年に完成したと伝えられています。現在、堂々川水系の災害はなくなりましたが、6番砂留の背後の堆砂敷には堂々公園が作られ、多くの市民に親しまれています。

609 早田荒神社のムクノキ



指定種別：市天然記念物  
所在地：神辺町川南

見学情報

JR福塩線神辺駅から約800m

ムクノキはニレ科の落葉高木で、早田荒神社の境内にあり、目通り周囲4.9m、樹高30mの県内第8番目の巨樹です。樹勢は旺盛で、ムクノキを神木とする例は全国各地で見られ、地元では、「早田の狐や狸が中条へ遊びに行った帰りの目印となるので、切ってはいけない」という言い伝えも残っています。

610 名越のアベマキ



指定種別：市天然記念物  
所在地：神辺町平野

見学情報

個人所有

アベマキはブナ科コナラ属の落葉高木で、神辺町平野名越の民家の背後の山中にあり、目通り周囲4.0m、樹高20mの県内第5番目の巨樹です。推定樹齢約400年と伝えられ、昔この地に移り住んだ祖先によって「田の水が涸れないよう、また水害に遭わないよう」と雨乞い・雨止めをつかさどる水の守り神として貴船神社を祀り、神木として植えたものと伝えられています。

611 神辺城跡のアベマキ



指定種別：市天然記念物  
所在地：神辺町川北

見学情報

JR福塩線神辺駅から約1.5km

アベマキはブナ科コナラ属の落葉高木で、中世備後国の守護城であった神辺城跡のある黄葉山の山頂にあり、目通り周囲3m、樹高30mの巨樹です。樹勢は非常に旺盛で、地域のシンボルとして親しまれています。

612 友定のナツメ



指定種別：市天然記念物  
所在地：神辺町三谷

見学情報

個人所有

ナツメはクロウメモドキ科ナツメ属の落葉高木で、果実は食用・薬用になります。目通り周囲1.9m、樹高8.0mの巨樹で、主な枝からは小枝が数多く分岐し伸びています。幹の下部に空洞があり樹勢に衰えがみられますが、ナツメとしては県内3番目の巨樹で、老木としても文化財的価値があります。

613 竹田のゲンジボタル及びその発生地



指定種別：県天然記念物  
所在地：神辺町下竹田

見学情報

井原鉄道御領駅から東へ約1.3km

ゲンジボタルは鞘翅目(こうちゅうもく)ホタル科に属する昆虫で、体長は2cm前後と大きく、5月中旬から6月中旬にかけて飛び交います。狭間川流域のゲンジボタルは竹田ボタルと呼ばれ親しまれてきました。江戸時代に当世隋一の漢詩人と称された菅茶山も「竹田夜帰」という七言絶句で、竹田を通って自宅に帰る時、狭間川の橋を渡っていると蛍が群れ飛んでいるので夜でも暗くないと称賛しています。地元では、ゲンジボタルの最盛期にはその乱れ飛ぶホタル合戦の様子は実に壮観だったと言われています。現在は河川改修や汚水によって激減していますが、地元の保護運動により回復が図られています。

614 石鎚山古墳群



指定種別：県史跡

所在地：加茂町加茂が丘

第1号古墳(直径20m、高さ3m)は、墳丘の裾と中腹斜面に列石を巡らせ、2基の竪穴式石室があります。第2号古墳(直径16m、高さ3m)は、組合せ式木棺と、割竹式木棺の2基の土坑があります。第1号古墳からは、斜縁二神二獣鏡・玉類・鉄剣・鉄鏃・銅鏃、第2号古墳からは内行花文鏡の破片・刀子が出土しています。築造年代は第1号古墳が4世紀後半、第2号古墳が4世紀末から5世紀初頭頃と考えられます。出土遺物は県重要文化財に指定されています。

## 615 猪ノ子古墳



指定種別：県史跡  
所在地：加茂町下加茂  
(江木神社境内)

加茂川と百谷川の合流地点に築かれ、平野部を南に一望できる位置にあります。内部主体は切石の花崗岩を使用した南に開口する横口式石槨です。石槨部は長さ 2.8m、幅 1.1m、高さ 0.9mで、羨道部は長さ東 3.8m、幅 1.7m、現高 1.25mです。石材の接合部には組合せのための加工が施され、天井石と各壁との隙間には漆喰が残っており、数少ない古墳時代終末期の古墳として貴重です。

## 616 窪田次郎生家跡・粟根のエノキ



指定種別：市史跡・市天然記念物  
所在地：加茂町粟根

見学情報 **P**

明治前期の啓蒙思想家、医療衛生活動家であった窪田次郎の生家跡で、庭園・石垣・土蔵を中心に代々栄えた庄屋屋敷の面影を残しています。敷地内には市天然記念物の粟根のエノキがあり、目通り周囲 4.4m、樹高 22m、根廻り周囲 6m、枝張り東西 24m・南北 27mと県内のエノキでは有数の大きさでしたが、2011(平成 23)年に枝の一部が折れてしまいました。

## 617 賀茂神社のケヤキ



指定種別：市天然記念物  
所在地：加茂町芦原

見学情報 **P WC**

ケヤキはニレ科ケヤキ属の落葉高木で、根廻り 3.7m、樹高約 21m、地上 6mで 5 本に枝分かれしており、枝張りは東西 13.5m、南北 12mで、樹令 450 年といわれています。福山市内のケヤキでは常国寺のケヤキに次ぐ巨樹です。

## 618 姫谷焼窯跡



指定種別：県史跡  
所在地：加茂町百谷

姫谷は九谷、伊万里とともに日本の初期色絵磁器の一つで、市右衛門によって開かれたと伝えられ、発掘調査では斜面を利用して築かれた窯跡 2基が確認されました。江戸時代前期末から中期前半の短期間に操業されたと考えられており、白磁・染付・鉄絵などの磁器や陶器・窯道具などが出土しています。窯の近くには陶工市右衛門の墓と伝えられる墓が祀られています。また、2016(平成28)年4月22日に「姫谷焼窯跡等出土資料」1,732点が福山市重要文化財(考古資料)に指定されました。この資料は、

発掘調査や採集によるもので、長年の調査研究や報告書により学術的な検討が加えられ、姫谷焼は1650年代の肥前窯の技術を導入しながら、17世紀後半の限られた期間に製作されたと考えられるようになりました。これらの資料は、姫谷焼の製作工程をはじめ製作年代や時代背景を解明し、伝世する姫谷焼製品の実像に迫る基礎資料として重要なものです。



## 619 菅町のシダレザクラ



指定種別：市天然記念物  
所在地：加茂町北山  
見学情報 **P**

シダレザクラはバラ科サクラ属の落葉高木で、枝がやわらかくしだれる桜の総称です。目通り周囲 2.4m、樹高 12mで樹齡 250 年と推定され、地上 3m付近で幹が二つに分かれています。枝張りは東西 16m、南北 18mで、花は小さく濃紅色で隔年にみごとな花をつけます。

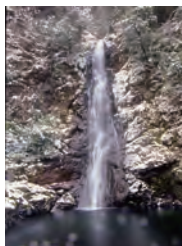
## 620 福泉寺のカヤ



指定種別：県天然記念物  
所在地：山野町山野  
(福泉寺境内)

カヤはイチイ科カヤ属の常緑高木で、主幹がほとんどまっすぐで、地上約 9m付近で小枝を分ち、目通り周囲 3.4m、樹高約 26メートルの巨樹でしたが、1992(平成 4)年に落雷のため主幹上部 12mが折れました。

## 621 龍頭峡



指定種別：県名勝  
所在地：山野町山野  
見学情報 **P WC**

吉備高原の縁辺部を深く刻む浸食谷で、典型的な V 字谷として知られています。谷の奥部には四段の滝・龍頭の滝(落差 57m)があり、下流には小瀑・早瀬・淵が続く、美観を呈しています。これらの地形は、この一帯が千枚岩質の粘板岩を基盤に、頁岩・砂岩・赤色凝灰岩を挟み、その上を流紋岩で覆う地質構成となり、硬い流紋岩がはがれ、柔らかい粘板岩が次第に浸食されてできたものです。この景観に原始的様相を示す常緑広葉樹林が光彩を添えています。

## 622 <sup>かみはらだに</sup> 上原谷石灰岩巨大礫



指定種別：県天然記念物  
所在地：山野町山野

この巨大礫は、赤色の凝灰岩質礫岩層（硯石層）の上に驚異的な規模の石灰岩礫（高さ30m・幅33m・奥行推定35m以上）があり、巨大礫の下は洞窟になって天井から鍾乳石が垂れ、その直下には石筍が成長しています。洞窟の中には式内社の多祁伊奈太岐佐耶布都（たけいなだきさやふつ）神社（岩屋権現）が祀られ、原始信仰の名残をとどめています。

## 623 <sup>ひがしのめん</sup> 東免のヒイラギ



指定種別：市天然記念物  
所在地：山野町山野

ヒイラギはモクセイ科モクセイ属の常緑高木で、周囲が畑になった南向きの斜面にあり、根廻り2.7m、目通り周囲2.6mで、地上1.4m付近で幹が二つに分かれています。枝張り東西10.3m、南北10m、樹高は約10mに達する巨樹です。

## 624 光明寺のゴヨウマツ



指定種別：市天然記念物  
所在地：山野町山野  
[見学情報] P

ゴヨウマツはマツ科マツ属の常緑高木で、神社、仏閣、公園などに植えられ、盆栽としても栽培されています。目通り周囲2.2m、樹高15m、枝張り東西14.5m・南北2.2mで、推定樹齢300年と伝えられています。

## 625 <sup>おおばら</sup> 大原石塔群



指定種別：市史跡  
所在地：山野町大原

108㎡の敷地内に宝篋印塔（ほうきょういんとう）24基とその残欠13点、五輪塔（ごりんとう）5基とその残欠76点余りで構成される石塔群です。形態が比較的整っており、これだけの規模と内容を持つ石塔群は市内にはあまり知られていません。石塔の年代は、宝篋印塔の形態からみて中世（鎌倉・室町時代）に位置づけられるものです。これまでの考証では、石に刻まれたわずかな文字などから、中世にこの一帯で活躍した宮氏一族や、近接する戸屋ヶ丸城（とやがまるじょう）跡に居城した大原氏などとの関連性が考察されており、山野地域の中世の様相を知る上で貴重な遺跡です。

## 626 葛原家住宅



指定種別：未指定  
所在地：神辺町八尋

「ぎんぎんぎらぎら夕日が沈む」童謡「夕日」の作詞者である葛原しげる（1886～1961）は、安那郡八尋村（神辺町八尋）に生まれました。葛原家住宅はしげるの生家で、祖父葛原勾当の設計といわれ、江戸時代末期の1846（弘化3）年に完成しました。勾当は3歳のときに失明しましたが、琴・三味線の名手として活躍し、備後、備中、備前の地方に生田流箏曲を広めた人物です。またしげるは生涯に国内外の約400校の校歌と童謡約4000篇を作詞したことで知られていますが、これらは祖父勾当の影響が強かったものと考えられます。

## 627 福山市神辺歴史民俗資料館



所在地：神辺町川北6-1  
[見学情報] P WC  
JR 福塩線神辺駅から約1.8km  
開館時間／9:00～17:00  
休館日／月曜日（祝日の場合は翌日）・  
年末年始、入館料無料  
TEL・FAX(084) 963-2361

神辺城跡に連なるカカラ山に位置する資料館で、神辺町内から出土した考古資料や収集された歴史資料・民俗資料が3つの展示室に展示されており、神辺町の歴史を系統的に学習することができます。

## 628 菅茶山記念館



所在地：神辺町新湯野30-2  
[見学情報] P WC  
井原鉄道井原線湯野駅から約700m  
開館時間／9:00～17:00  
休館日／月曜日（祝日の場合は翌日）・  
年末年始、入館料無料  
TEL・FAX(084) 963-2361

神辺町出身の教育者、漢詩人、儒学者である菅茶山および関連文人の書画資料を常設展示しています。また、同町出身の箏曲家・葛原勾当および教育者、童謡作詩家・葛原しげるに関する資料や、日本画家で名誉市民の金島桂華、猪原大華をはじめとする絵画等も収蔵展示しています。

## 629 旧山野村役場（山野民俗資料館）



登録種別：国登録有形文化財  
所在地：山野町山野  
[見学情報] P WC  
開館時間／10:00～16:30  
開館日／毎週日曜日、年末年始休館、入館料無料

1892（明治25）年に建設された安那郡山野村役場を改修して資料館としたもので、山野町域で収集された民俗資料・歴史資料などを展示しています。和風の村役場建物として現存しているのは広島県東部においては唯一のものです。収蔵する山野民俗資料564点は市有形民俗文化財に指定されており、養蚕、林業、炭焼など山間部の暮らしを支えてきた道具が展示されています。